

HRP conjugated Anti DXd/Exatecan human monoclonal antibody

DXd: Deruxtecan, Exatecan

製品コード PP-AB12703-0R

Clone No. AB12703

Lot. B-1

濃度 0.5 mg/mL

容量 50 μ L

Ig class G1

Genbank

由来 CHO組換え抗体発現生産株

Conjugate HRP

特異性 DXdとExatecanと特異的に反応する。

精製法 ProteinA

溶媒 Storage Buffer, 50%グリセロール(防腐剤として0.1% ProClin 950添加)

Application 使用濃度は実験にあわせて至適化が必要です。

Western Blot 未検討

参考使用濃度

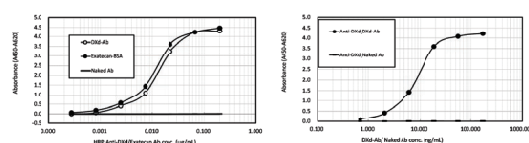
非還元 Western Blot 未検討

参考使用濃度

ELISA

可

参考使用濃度 推奨濃度0.1~0.2 μ g/mL



詳細は次ページをご参照ください。

免疫沈降 未検討

参考使用濃度

Supershift Assay 未検討

参考使用濃度

クロマチン免疫沈降 未検討

参考使用濃度

免疫染色 未検討

参考使用濃度

保存方法 1ヶ月程度の保存の場合は、2~8℃で保存可能です。長期保存の場合は、抗体を小分けした上で、-20℃ 以下での保存をお勧めします。また、凍結融解を繰り返すと、抗体が劣化し、本来の性能が得られない場合があるため、お避けください。

参考文献

備考

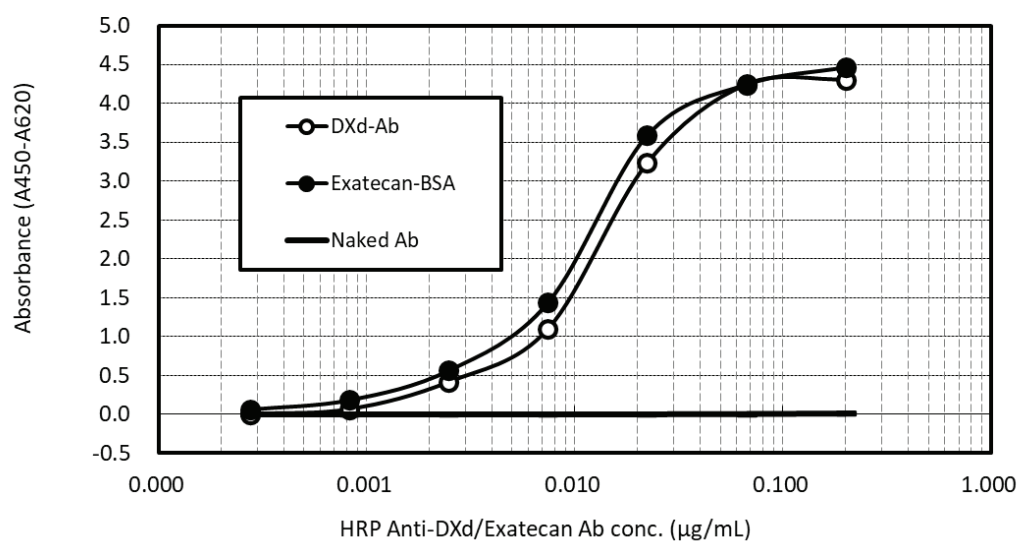
FOR RESEARCH ONLY. NOT FOR USE IN HUMANS.

本製品は研究目的のみで使用するできます。人やそのほか動物の疾病診断、治療・予防に使用することはできません。研究目的以外で使用する場合は、あらかじめ弊社にご相談ください。

MADE IN JAPAN

Sep 8, 2025

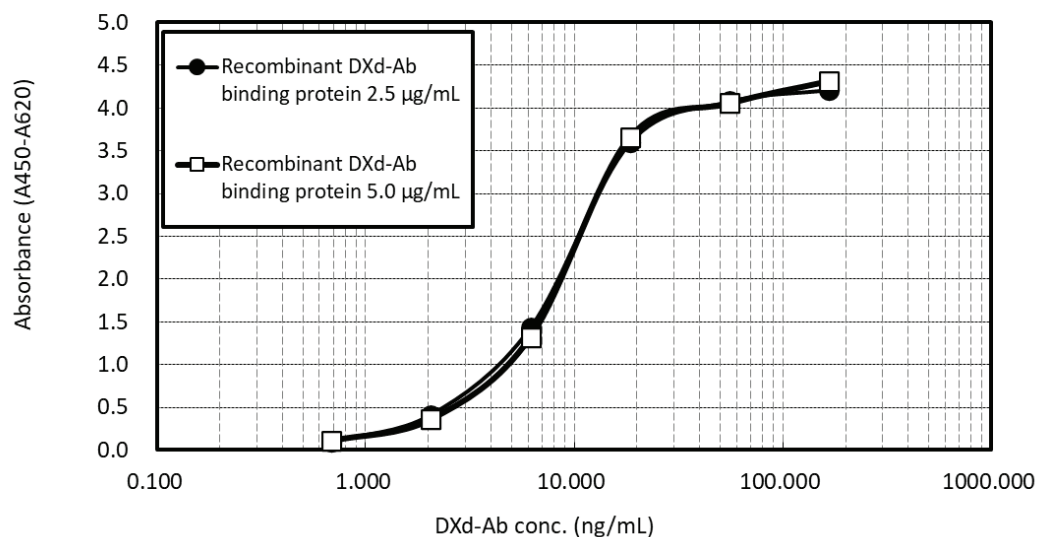
HRP標識抗DXd/Exatecan抗体ELISA



DXd抗体, Exatecan-BSA, Exatecan非結合抗体 (Naked Ab) を2.5 μg/mLの濃度で固相化。次に50%マウス血漿で希釈したHRP標識抗DXd/Exatecan 抗体 (PP-AB12703-0R) の希釈系列を添加。HRPを用いたイムノアッセイにより検出。

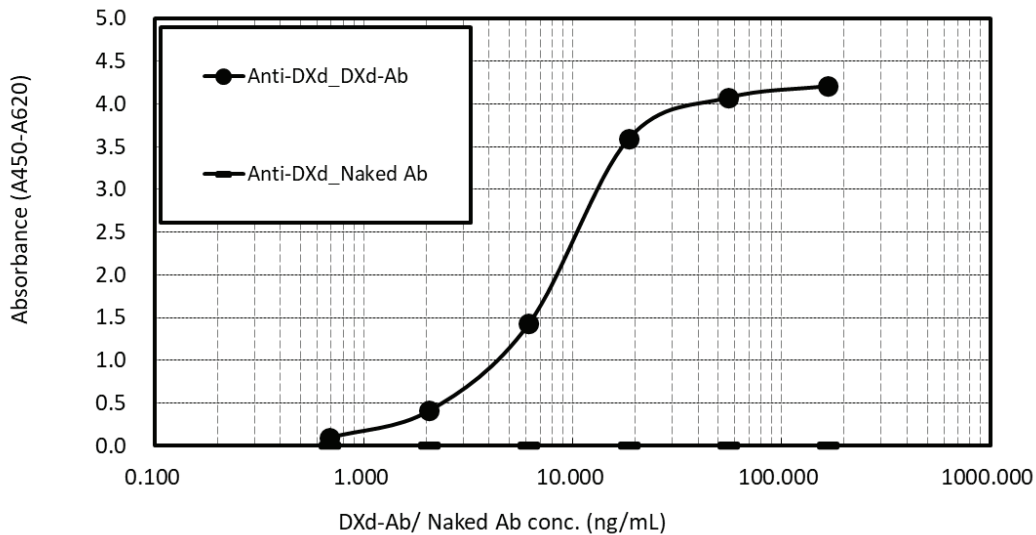
組換えDXd抗体結合タンパク質固相 抗DXd/Exatecan抗体ブリッジングELISA

1. 組換えDXd抗体結合タンパク質のコーティング濃度の影響



組換えDXd抗体結合タンパク質を2.5 μg/mLと5.0 μg/mLの濃度で固相化。ブロッキング後、段階希釈した DXd抗体を添加し、続いて HRP 標識抗DXd/Exatecan 抗体 (PP-AB12703-0R) を 1:2500 希釈 (最終濃度約 0.2 μg/mL) で添加する。HRPを用いたイムノアッセイにより検出。

2. DXd抗体とDXd非結合抗体（Naked Ab）の比較



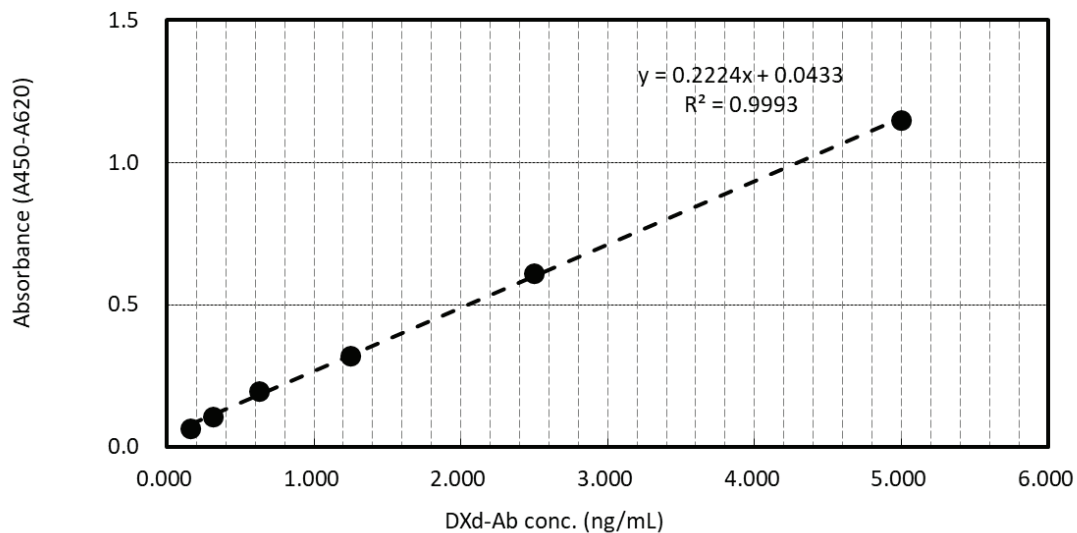
組換えDXd抗体結合タンパク質を2.5 µg/mLの濃度で固相化。ブロッキング後、50%マウス血漿で段階希釈した DXd抗体またはNaked抗体を添加し、続いて HRP 標識抗DXd/Exatecan 抗体（PP-AB12703-0R）を 1:2500 希釈（最終濃度 0.2 µg/mL）で添加する。HRPを用いたイムノアッセイにより検出。

検出限界*1: 0.68 ng/mL

定量範囲*2: 2.06-55.6 ng/mL

薬物動態評価用ELISA

1. 組換えDXd抗体結合タンパク質 固相抗DXd/Exatecan抗体ブリッジング ELISAによるDXd抗体の標準曲線

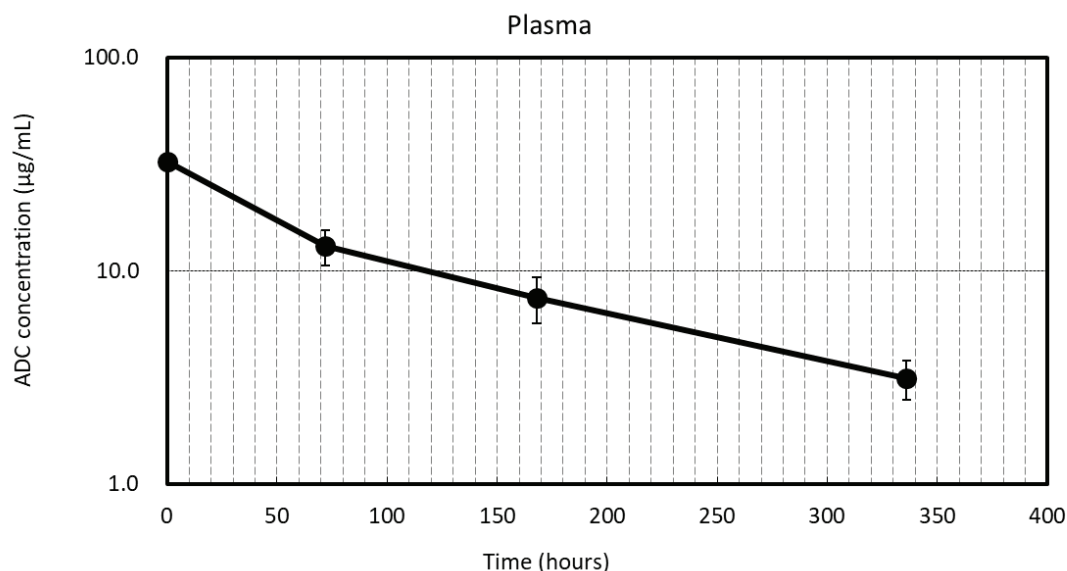


組換えDXd抗体結合タンパク質を2.5 µg/mLの濃度で固相化。ブロッキング後、段階希釈した DXd抗体を添加し、続いて HRP 標識抗DXd/Exatecan 抗体（PP-AB12703-0R）を 1:2500 希釈（最終濃度約 0.2 µg/mL）で添加する。HRPを用いたイムノアッセイにより検出。

検出限界*1: 0.16 ng/mL

定量範囲*2: 0.32-5.0 ng/mL

2. マウスにおける単回投与後の DXd抗体の血漿薬物動態



マウスに3 mg/kg 単回投与後、組換えDXd抗体結合タンパク質固相抗DXd/Exatecan抗体ブリッジング ELISAを用いて測定した DXd抗体の血漿薬物動態（平均 ± SD、各時点 n = 3）。

採血は投与後 5 分、3 日、7 日、14 日に実施した。血漿サンプルは 5 分時点では 1:16 000～1:128 000、3～14 日時点では 1:4 000～1:32 000 に希釈し、各希釈倍率を三重測定した。検証済み範囲内に収まった濃度を逆算し、各動物について適格な希釈倍率の平均値を算出した。

*1 検出限界: ブランクの平均 + 2 × 標準偏差

*2 定量範囲は、定量上限（ULOQ: Upper Limit of Quantification）および定量下限（LLOQ: Lower Limit of Quantification）を用いて設定。ULOQは、逆算値が80%-120%で、変動係数（CV）が30%未満の最高濃度。LLOQは、逆算値が75%-125%で、CVが30%未満の最低濃度。